

一般質問



敷島・中郷橋りょう建設予定地

緊急時にも安全安心のサービスを

伊花 明美 議員

被災者支援システム導入を

質問 災害発生時に有効な力を発揮する「被災者支援システム」を、今まで導入しなかった理由は。

答弁 防災証明書の発行だけに利用するのであれば、被災者支援システムを導入しなくても対応できるため。

質問 システム導入で、義

援金等の支給に必要な、り

災証明の発行が大幅に軽減現在の、り災証明の発行は。

答弁 被災者からの申請により、被災状況を確認できる資料により発行しています。

質問 災害発生時にも、市民本位の行政サービスを提供できる「被災者支援シス

テム」を導入する考えは。

テム」を導入する考えは。

答弁 被災者支援システムは、災害時の情報管理システムとして、整備されました。早期の導入を検討します。

救急医療情報キット導入を

質問 独居高齢者と要支援の在宅障がい者数は。高年齢者等緊急通報システムの普及状況と通報・出勤数は。

答弁 高齢者は2062人、障がい者は246人。システム利用者は648人、通報は前年度1万262件で

障がい者は246人。システム利用者は648人、通報は前年度1万262件で

障がい者は246人。システム利用者は648人、通報は前年度1万262件で

赤城町関連の幹線国道・県道・市橋りょうの整備について

狩野 保明 議員

質問 合併特例債の対象事業の「橋りょう整備事業（赤城町敷島・中郷）間」の概要は。

答弁 国道17号浅田交差点と敷島宮田線を結ぶ、1・3kmの道路・橋りょう整備です。

質問 敷島側の左護岸上の市道と橋りょうとの平面交

差部、市道敷島宮田線との交差点の安全対策は。

答弁 河川管理者の土木事務所や公安委員会の指導を受け安全確保を優先します。

質問 橋名は、いつごろどのような方法で決めるのか。

答弁 平成25年度末までに自治会等の意見をお聞きしてふさわしい名称としたい。

出動は57件です。

質問 平常時からの情報収集や共有が不可欠な、高年齢者や障がい者の災害時要援護者登録の状況は。

答弁 災害時要援護者登録は未整備ですが、要支援者の把握は行っております。

質問 持病や服薬の情報を正確に早く医療現場に伝えられる「救急医療情報キット」を導入する考えは。

答弁 救急医療の有効な手段なので、導入済みの社協の情報を収集し検討したい。

質問 赤城南面道路353号改良整備促進期成同盟会の会長である渋川市長は、「白井・樽間橋りょう」の陳情は毎年度行っているのか。また陳情先は。

答弁 毎年度県知事、県議会正副議長、産経土木常任委員長へ要望しています。

質問 国道17号綾戸バイパス工事で赤城町棚下地区での本線と出入り取付け道との安全対策は。また進入路に「上り、下り」を間違えないよう標識を設置すべき

ではないか。

答弁 本線との出入りは、安全面から左折のみとなりますので、標識も必要です。

質問 綾戸バイパス完成後の取付け道の管理者と旧国道17号の管理者は。

答弁 国・県の責任において安全な通行が確保できるように進めたいと考えます。

質問 綾戸バイパス整備促進期成同盟会設置の考えは。

答弁 沼田市や利根郡の町村の意向を踏まえて、今後検討していきます。



救急医療情報キット

非常時の通信対応について

篠田 徳壽 議員

質問 情報提供の手段として防災無線があるが、難聴地域の把握と対応は。

答弁 地理的条件や気象条件により聞き取りにくい地域があります。防災無線のデジタル化事業により、難聴地域の解消を図ります。

質問 コミュニティFM導入に向け準備を進めています。

連携など、充実に向けた対応は。

答弁 各関係機関による非常通信手段の確保について調整し、補助金等について検討を進めてまいります。

花と緑のぐんまづくり2011 in 渋川について

質問 東日本大震災により延期した影響と対応は。

答弁 影響はありませんでした。小中学生が育てた花苗は、チャリティーバザーを行い義援金としました。

質問 市内の事業者に協賛

いただいた協賛金の金額は。また協賛金は後継事業にも使用できることが望ましいが、対応は可能なのか。

答弁 県の協議会へ1200万円を超える協賛金が寄せられましたが、市の後継事業への使用は要望します。

ご当地ナンバープレート導入について

質問 製作費用と導入に向けた対応は。

答弁 金型の製作費用が約300万円。導入した先進市町村の効果を研究したい。

委託事業の再構築

今井 五郎 議員

質問 人材登用や委託料軽減のために、道路維持管理軽作業は自治会またはNPOに委託する考えはあるか。

答弁 市では除雪や除草、土砂撤去など、道路の機能維持のため多くの作業を委託しています。自治会等への委託は、受注体制もありますので研究していきます。

質問 生徒の「未来力」を養うために、本市在宅者を社会講師とした小中学校特別支援教養事業の拡大を。

答弁 マイタウンティーチャーや特別支援教育支援員は、仕事内容から現在の採用方法を持続したい。事業の拡大は、生徒等の状況を踏まえ慎重に検討したい。

防災無線設備スピーカーの増設

質問 震災時、非常に聞きにくいとの声多数有り。防災無線のスピーカー増設を。

答弁 予定している防災行政無線デジタル化事業で聞き取りにくい地域の調査を行い、スピーカーの増設が必要な地域には、増設していきます。

質問 市道八幡愛宕線道路改良工事は、周囲の治水問題を考慮した設計か。

答弁 道路改良に伴う雨水



防災無線室

排水処理については、地元の方々と協議し、安全性を十分に考慮した既存水路の改修等を行う予定です。買い物弱者サービス事業の強化

質問 本庁舎内に専属の係を置いて、本格的な販売配達事業化の推進を。

答弁 買い物弱者に対しては市も対策を立てているが、決め手がなく模索しています。各部で連携を取りながら、できることから進めたい。